

学習障害のある児童が見せる臨床症状 の経年的移り変わり

～発達クリニックでの継続した支援を通してみる
義務教育期間中の移り変わり～



指定討論

2015/10/11 福井大学 藤岡





指定討論①

- 「LD特性のある子どもたちに生じる困難に対しての見通しをもった支援や配慮が広がることを願い、このシンポジウムを企画した」

→年齢によって、その必要な支援や配慮、気をつけなければならないことは変わる。

しかし、きちんと確認していききたいことが…

→年齢や学年(さらには状態像で)、支援や配慮が表面的には変わるかもしれない。しかし、支援者は何を考えて支援をするべきなのか？





指定討論①

資料の一つとして…

KINDL ^R dimensions	SpLD group (n = 70)	Control group (n = 69)	F	P
	Mean (SD)	Mean (SD)		
Physical well-being	78.92 (13.69)	80.43 (14.77)	0.39	0.53
Emotional well-being	75.59 (16.30)	80.57 (10.93)	4.47	0.04*
Self-esteem	59.64 (18.30)	69.32 (15.32)	11.41	0.001**
Family	70.85 (15.83)	76.87 (13.92)	5.58	0.02*
Friends	75.45 (18.29)	81.44 (15.79)	4.27	0.04*
School functioning	65.92 (16.29)	68.04 (12.66)	0.73	0.39

* $P < 0.05$, ** $P < 0.001$.

KINDL^R, German questionnaire for measuring quality of life in children and adolescents; SpLD, specific learning disabilities.

Ginieri-Coccosis et al.(2011)より引用

- 限局性学習症のある子の自尊心は低い
 - 学校の勉強についての心配事は同じくらい
- ただ勉強を教えれば良いというわけではない(?)





指定討論①

一点だけ、話題提供者の先生方に質問

私たちが、LD特性のある子たちに対してすべきことの本質とは何なのか？何を目指して“支援”を行うか？

もう一度、支援の原点に立ち返るという意味で。。。

